

建設実現へ共同議連

岩手、宮城の両県議会

18日、政府へ要請活動

宇宙の謎に迫る国際リニアコライダー（ILC）の誘致実現を目指す本県議会と宮城県議会の議員連盟は、共同でILC建設実現議員連盟を立ち上げ、18日に菅義偉官房長官ら政府関係者への要請活動を行う。ILC建設のコスト削減による誘致実現性の高まりを受け、両県の連携を深めるとともに、早期実現に向けた政府への働き掛けを強める。



東北誘致

両県議会の議連に所属する議員計97人で構成。本県議会ILC建設実現議員連盟会長の佐々木順一議長と宮城県議会ILC誘致議員連盟会長の中島源陽議長が共同代表を務める。設立は11日。

18日の活動は両代表ら約20人が行い、要請先は菅官房長官のほか大島理森衆院議長、鈴木俊一五輪相、小野寺五典防衛大臣らに予定。地元熱意を伝え、ILCを活用した地方創生の検討や早期決断を求める。佐々木議長は「誘致判断が来年に迫っており、今年が要請活動にとって大事な年になる。2県が一体となり、政府の意思表明を求めていく」と決意を語った。

ILCは地下トンネルに直線型加速器を設置し、宇宙誕生の謎を解明しようとする国際プロジェクト。本

県と宮城県にまたがる北上山地（北上高地）が世界最有力の建設候補地となっている。世界の主要な加速器研究所の所長らでつくる国際将来加速器委員会（ICFA）は11月、ILCの初期整備延長を当初計画の31キロから20キロに短縮することを決

定。建設コストは最大4割削減となる見通しで、日本政府は有識者会議などを踏まえ、2018年中にも誘致の可否を判断するとみられる。

両県議会はILC実現を目指す議連を13年3月に設立。本県議連は全議員47人で構成し、文部科学省や超党派の国会議員によるリニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟などに要請活動を行っている。

ニュースフラッシュ

■自民県連がILC実現など要望 自民党県連（千葉伝会長）は12日、復興庁や文部科学省など省庁を訪れ、東日本大震災からの復興支援や国際リニアコライダー（ILC）の実現などを要望した。文科省は千葉会長や嵯峨竜朗幹事長、岩崎友一政調会長ら県議10人が訪問。千葉会長が林芳正文科相に要望書を手渡し、「本県は震災復興を一日も早く進めないとならない。ILCもぜひ実現に向け（国内誘致について）手を挙げて



ほしい」と訴えた＝写真。

林氏はILCに関して「（加速器を短縮する）国際研究者コミュニティの計画見直しを踏まえ、有識者会議でしっかり検討したい」と述べた。

自民党本部では二階俊博幹事長に要望書を提出した。

（東京支社）